

洋書輸入協会会報

VOL. 25

NO. 7・8

(通巻291号) 1991年7・8月合併号

理事会報告

5月27日(月)

(一) 定時総会報告

5月14日の協会定時総会報告を検討の上承認した。

(二) その他

- (1) Interlibro '91 First Milan Book Fair への参加の要請があったが、協会としては参加しないことにした。
- (2) 最近海外の大手出版社で支拂条件を強化してきているところがあり、協会として抗議することにし、雑誌委員会で原案を作成することになった。
- (3) 1992年秋に開催される書協の東京ブックフェアの洋書関係委員に、関根隼治(丸善)、吉本明城(紀伊國屋)、新田満夫(雄松堂)の三氏が任命されたことが報告された。

とにした。功績を称えて協会として記念品を贈呈することになった。

(三) 4月、5月収支報告

総務委員会での検討にもとずく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(四) 50周年記事行事の件

特別小委員会委員長佐々木大刀夫氏(第一)から提案された招待者名簿(案)にもとづき検討の結果、若干名を追加して決定した。

(五) その他

1991年度事業計画

6月26日(水)

(一) 退会届

賛助会員(株)オークラ・サイエンスは会社解散のため、

6月30日をもって退会となった。

(二) 協会顧問辞退

長年にわたり協会顧問を務めていただいた田辺寛氏(丸善OB)から、辞意の申し入れがあり、受諾するこ

協会定時総会(5月14日)で各委員会から要旨次のような提案があり、拍手をもって可決承認されました。

会報(極東・内藤氏)

協会会報を毎月発行する。内容を豊富にしてご期待に応えたい。自社のPRも結構につき会員紹介欄への投稿をお願いする。

理事会報告	1	東京税関東京外出張所の 人事異動について	5	東京の坂と橋と文明開化(16)	8
1991年度事業計画	1	文化厚生委員会だより		海外ニュース	9
協会事務所の資料収集 整備にご協力を!	2	洋書輸入協会懇親旅行	6	書籍展示会のおしらせ	9
海外ニュース	2	フォーティ・ラブテニス例会	6	総代理店ご案内	9
洋書輸入協会史(63)	3	72会ゴルフコンペ	7	訃報	9
				広告	10

渉外 (ユサコ・山川氏)

協会ロゴ (JBIA の文字入り) を、創立50周年を記念し協会の存在を内外にアピールするため作成したい。特別予算を計上、デザインを会員各社の個人から募集する。また CD-ROM セミナーを開催する。著作権問題、ダイレクトリーのデータベース化も検討したい。

広報 (第一出版貿易・佐々木氏)

協会メンバーリストの改訂版を1,000部作成し、フランクフルト・ブックフェア、創立50周年記念祝賀会などに活用し、協会の存在を内外に知らせたい。

事業 (中央洋書・前橋氏)

「洋書まつり」を開催する。協会 PR の性格を持っており、新聞、雑誌、図書館などに PR し、50周年謝恩セールの広告も図りたい。

ダイレクトリー (東光堂・石内氏)

会員各位のご意見を聞いて迫力のあるダイレクトリーを刊行したい。1991年版は広告ページが減少した。各社の広告へのご協力をお願いしたい。

経営研究・雑誌 (日本出版貿易・杉山氏)

会員相互の利益を図って内外情報の収集、交換を行う。また研究会および Agent ものの情報収集も行いたい。

文化厚生 (洋販・栗原氏)

協会懇親旅行、新年懇親会、各種同好会を開催する。6月に開催する懇親旅行に多数ご参加願いたい。

50周年記念事業 (第一出版貿易・佐々木氏)

特別小委員会の委員長を命じられ、委員会で50周年の節目にあたっての記念行事のプランを次の通りたて、経費は特別会計より予算化された。実行するには会員のコンセンサスが必要で、ご了承を得たい。

日時・会場：9月11日(水)、如水会館

行事：記念式典、特別功労者感謝状贈呈、記念講演会、祝賀パーティ

出席者：招待者約50名、会員・各社1名、理事、特別委員他、他に有料参加者

以上

協会事務所の資料収集、整備にご協力を！

予てより協会事務所に会員の便に供する資料整備の必要性が論じられておりましたが、たまたま先の定時総会において、その一環として諸外国出版物関係団体の会員名簿、ダイレクトリーなどを備えて欲しいとの要望がありました。これを受けて、協会として渉外委員会を中心に資料整備を図って行くことと致しましたが、この度その第一弾として、ユサコ・山川氏と日本出版貿易・前橋氏より、ABA 等へ参加の折入手されたとして、International Directory of Antiquarian Booksellers 1990-91, Guide to City Bookstores (Publishers Weekly ABA 特集号)、ABA Exhibitor Guide 以上3点の名簿をお持ち寄り頂き、早速協会事務所に備えさせて頂きました。

この機会に会員皆様にご案内申し上げますと同時に、今後共事務所の資料整備にご協力をお願いします。
(総務委員会)

海外ニュース

「Heinle & Heinle Publishers が Newbury を買収」

ザ・トムソン・コーポレーション傘下の Heinle & Heinle 社が ESL (English-as-a-Second Language) 市場でのシェア拡大のため、Haper Collins 社から Newbury House を買収した。買収条件は明らかにされていない。H & H Charles Heinle 社長によると Newbury 社出版物の分野と品質が買収する上で特に魅力があったとのこと。Newbury はカレッジ市場を中心に約175点の既刊書を持ち、年刊20～25点の新刊を出版している。Heinle 社長によると H & H 社のビジネスは米国、海外市場とも活発で海外市場では特にブラジルと日本が好調の由、また Newbury の名前は何らかの形で存続させるとしている。

今回の Newbury 買収により H & H 社の売上総額は、1,000万ドル近くに達する。(B.P.レポート 5月20日号から抜粋)

— 協紀伊國屋書店提供 —

洋書輸入協会史 (63)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

68 インク・スト (前号よりの続き)

洋書輸入協会

昭和34 (1959) 年6月に、英国印刷業界が印刷インク製造業界までも巻き込んで大規模なストライキを展開した。

68.2 拡大化、長期化、深刻化したインク・ストの終結と、得意先への経過の説明文の配布

このストが次第に拡大化、長期化、深刻化し、日本の英国書籍、新聞・雑誌の購読者に大きな迷惑を及ぼすおそれが高まったため、お得意先へ状況を知らせる協会としての文書を作って欲しいという要望が強くなってきた。そのため理事会としても7月中旬より文書作製の作業に入った。ところがUP特電で、長期化したこのストもようやく7月31日に終了し、8月5日より職場復帰する旨の知らせが届いた。そこで、既に出て来て配布するばかりになっていた通知文を手直した上で刷り直し、8月12日に次のような内容で配布した。

記

「英国インク・スト」についてのお知らせ

謹啓 毎々御引立に預り有難く御礼申し上げます。

さてすでに新聞紙上などで御承知のことと存じますが、去る6月17日に地方新聞の印刷工のストに端を発した「英国インク・スト」は、その後次第に発展して殊に印刷インク製造業界にまで及んだ結果、印刷インクの製造が停止して6月20日以後、全英の大部分の地方紙、雑誌を始め、政府刊行物に至るまで刊行が停止してしまい、また最初は争議の埒外にあった全国紙も、ために減頁の止むなきに立ち至り、書籍についても新刊、重版ともにほとんど刊行遅延の状態にありました。

このため英国内はもとより、海外各方面よりその成り行きが注目されておりましたところ、幸い去る7月31日に解決されたと報ぜられておりますが、わが国におけるこの影響は、なお数ヵ月間は続くものと見られ、停刊、減頁、あるいは延着など、皆様に思わぬ御迷惑をおかけするものと恐縮致しております。何とぞ上記の事情をよろしく御諒察下さいまして、暫時の御不便を御容赦下さいますよう伏してお願い申し上げます。 敬具

昭和34年8月

一つの業界でストライキが45日間も続けば、その業界は麻痺状態となる。まして印刷インク製造業界までも巻き込み、4300の印刷工場の大部分から全国紙にまでも影響を及ぼしたこのストは、英国出版界に深刻な打撃を与え、ひいては日本の洋書業界、読者層にまで影響を及ぼした大規模なものであった。その後32年を経過した今日まで、このように広範囲な出版、印刷関係のストは例を見ない。インク・ストとして世人に永く記憶されている所以のものである。

69 関西支部に関する件

69.1 関西支部設立の経緯

昭和26 (1951) 年早々より、関西で海外出版物輸入同業会支部設立の機運が高まり、東京本部との間で打ち合わせが重ねられた。これに応じて東京本部では、9月26日に臨時総会を招集し、支部を置くことが出来るよう規約を改正した。

関西では翌9月27日に関西支部創立総会を開催し、支部設立の手續を完了した。ただしその間に若干の手違いがあり、東京本部では昭和27年1月(17日)が創立の日とされ、同年1月現在の会員は10社となっている。

支部長は当初尾崎義夫氏、昭和27年4月よりは山内金三郎氏が就任している。(この経緯については、JBIA会報 Vol.22 No.1 1988年1月号所載、協会史 (27)、第28章「関西支部の設立」参照)

69.2 本部と関西支部との間の組織的連絡活動低下

ところが、昭和30 (1955) 年頃から、いささか本部と関西支部との間の組織的連絡活動が低調となる傾きが生じてきた。もっとも関西の個々の会社と本部との間は、必要な時には連絡が行われていたので、情報の流通には事欠いていない。また関西支部の内部での組織活動も変りなく継続されている。しかし組織と組織の間の連絡が何となく低調になると、その間に雑音がはさまる余地も出てくる。

この間の事情を心配した双方の事情に詳しい洋販の渡

辺氏などのあつ旋で、昭和34（1959）年4月7日の理事会において、本部の理事一同が大阪行きを決定した。

69.3 関西支部との懇談

あらかじめ伝えられた関西支部よりの議題を検討した上で、4月27日大阪で理事会と関西支部との懇談が行われた。

議題としては、同業会々費の一部を関西支部で留保して支部活動の費用に充てること、関西地区に本社を持つ10社に、東京に本社を持つ会社8社の出先機関とを、組織として正式に含めること、外国雑誌のカタログをJBIAとして統一作製したらどうかなどという実務的なことばかりでなく、最低賃金制を研究せよとか、可成り広範囲な課題をも含んでいた。

これらの議題は、その後も規約改正の問題を含めて打ち合わせが続けられ、5月20日の総会を迎えている。

69.4 関西支部の新装と規約改正

昭和34（1959）年5月20日の洋書輸入協会総会では、次のような提案の討議が行われた。即ち、関西支部は出先会員を含めて支部を構成するが、出先会員には投票権はない、支部長は関西支部で推薦し、その支部長は自動的に協会の理事に就任する、会費は500円のうち200円を支部費とするが、出先会員の会費は200円のみとする、などである。

これが決定された上で、本部規約のうちで関西支部に関する部分の改正が提案され可決されている。即ち、関西支部長をそのまま理事とすること、そのために本部理事を一名増員するということである。

規約の変更の条文に関しては、他にもいろいろとあったために、5月26日付のJBIA No.76で成案を配布し、会員の意見を求めた上で決定している。

関西支部規定については、5月28日付で新装提案され、審議された上で決定されている。これらの経過を、洋書輸入協会としては次のように会員に知らせているが、表現にいささか問題があり誤解を招きそうである。

記

関西支部成立の件

関西支部よりの報告によれば、過日の総会の決議に基づき、5月28日支部発会式を行い支部規定案を審議したる由にて、同案を送付して参りましたので理事会にて検討致します。

同時に1960年度外国雑誌目録統一について申し入れがありましたので、これも理事会にて検討致します。（以上）

表現にいささか問題があるとしたのは、関西支部は前出の69.1項で述べたように、昭和27年の1月に成立しているため、今回新しく成立したものでないこと、また同様の趣旨から、支部発会式というのも妥当でないことなどからである。

なお関西支部の新しい規定案は6月16日の理事会において承認されている。

70 運賃込み正味問題

70.1 問題の発端

昭和34（1959）年7月25日付、JBIA No.82にて、23日に開催された協会懇談会の報告がなされているが、その中に下記の記事がある。

記

和書小売商組合連合会で最近問題になっております運賃込み正味の件を、洋書にも適用したい旨取次店から一部会員に申し込みがあった由で、近くこれに関係ある会員の会合を開き討議することと致します。（以上）

この件は、書籍協会、取次協会、小売全連で、運賃（平均して1分3厘かかっている由）を別に計上せず、正味に含めてしまう、9月1日より実施するなどの打ち合わせが行われたために生じた問題の由で、洋書にも必ず波及してこようという話であった。これについては、早急に卸に関係のある協会員が集まって検討することとなった。

70.2 運賃込み正味問題と洋書との関係

8月10日に、東販、丸善和書仕入課長緑川氏、医学書院椿氏を交えて理事会を開催し、7月31日付の日経記事を参照しつつこの問題を討議した。その討議を通じて明らかにされたこの問題と洋書との関係は次の通り。

運賃込み正味の件は、和書の業界では、取次店と小売店の間で掛を1分（1%）減らすことによって1率実施されよう。取次店と版元の間では、版元が最低0.3%を負担するが、それ以上については個々の話し合いになろう。以上が基本的な考え方である。

この和書業界の話し合いを洋書に準用するとすれば、

直輸入元と取次店の間では、取次店から直輸入元に支払う際に0.3%から0.5%位を差引くことになる。ただしリプリント版については和書並みに扱うこととなる。

以上の考え方は、洋書の直輸入元が和書業界の出版元の立場に立つ訳であるが、洋書の直輸入元は海外から日本までの運賃を既に負担しており、これでは二重の負担になる。また洋書、和書を込みで扱っている直輸入元は

別扱いが難しくなるが、別扱いの出来るところは分離して2本立てとすれば、洋書については洋書直輸入元としての立場から取次店と交渉することが可能となろう。そして洋書直輸入元としては、0.3%～0.5%の運賃負担はやりたくないというのが、各社の主張であった。(この項続く)

東京税関東京外郵出張所の人事異動について

平成3年7月1日付にて、東京税関東京外郵出張所の人事異動が行われました。現在、所長以下担当係官及び事務分担は以下の通りになっています。

所長 稲森増多 次長 関 亘	総務課	課 長	竹内 毅	出張所の事務の総合的企画及び運営 通協担当：中村 寛
	輸出通関部門	統括審査官	藤原 隆	輸出郵便物の通関事務 戻し税または還付金関係事務 外為法関係事務、証明書交付事務
	輸入総括部門	統括審査官	堀内 格	輸入通関事務の調整、評価関係事務 収納、還付金関係事務
		特別審査官	諸田 裕次	無体財産権及びワシントン条約関係事務 特惠管理及び税表分類 外為法関係事務
	受理審査部門	統括審査官	高畑 利弘	輸入郵便物の受付事務 保税運送の承認、証明書交付事務 ブック通関事務
	海上輸入通関第1部門	統括審査官	小暮 文弥	海上輸入郵便物の通関事務
	海上輸入通関第2部門	統括審査官	岡 弘	同上
	海上輸入通関第3部門	統括審査官	浮田 芳照	同上
	海上輸入通関第4部門	統括審査官	嶋田 秀雄	同上
	航空輸入通関第1部門	統括審査官	原 幸行	航空輸入郵便物の通関事務
	航空輸入通関第2部門	統括審査官	花田 清治	同上
	航空輸入通関第3部門	統括審査官	木村 英一	同上
	航空輸入通関第4部門	統括審査官	宮尾 清美	同上
	税関相談官		古瀬 隆久 荒井 章	通関相談、苦情処理 通関指導と税関業務の広報関連事務

洋書輸入協会懇親旅行―伊豆・熱川温泉

列車の旅行は向い合った4人が一枰を占領できると、こころなごむ会話が续こうというものである。通勤電車の形態だと、たとえ座れたとしても、前に人が立って暑苦しい。今回の伊豆熱川行きリゾート踊り子号は、この何れでもない形式である。ずらり、20人を越える協会のメンバーが、広い窓に向って横一列に座り、相模から伊豆の海を眺めつつ熱川まで南下する。

線路はアスファルトの舗装よりも固い筈だが、バスのタイヤのクッションよりも軀への響きが疲れないのは不思議である。梅雨どきにしては珍しく晴れた此の日の海は、波ひとつ立てず、横一杯に広い青いスクリーンが右からパノラマ劇場の幕に登場して、左に消えて行く実物の映画であった。

東伊豆の海岸線から熱湯の吹き上げる熱川は、火事の記憶が生々しい。泊る宿は、例の火元の隣であった。大東館の後が取り崩されて、湯気が突き上げている中を、建築会社の社員の動きが忙しかった。泊る宿、熱川館は昨年11月の改築、モダンな施工であった。出窓が建物を一廻りして、非常階段につながるのは、隣の火事の経験を生かしたものであろう。4階の大きな風呂の目の高さが、向いの大島を眺めるに最適であった。大きな一枚ガラスが一幅の日本画を区切って、中央ののんびり横たわっている大島は、島原が荒れているのを全く知らない。溶岩流がゆっくり海へ伸びる方が、破碎流よりも始末がよい。数年前のこの島の花火のような噴火を思い出した。大島の右に見える尖った島の名を聞くと、利島と云う。「としま、とは私には云いにくいわ」と女中さんの説明。

宴会の開始が5時50分と細かく時刻をきってあったのは、6時よりホステスが入り、その支払が立つとの涙ぐましい配慮からであった。総勢、27社、36名という参加は、協会全体から見ると如何にも少ないが、参加した者には一層の親しみが増した。理事長代理を支替した丸善関根さんの第1回の旅行であった。東亜ブック鶴さんの巧みな司会に誘導されて、自慢のカラオケが賑い、ロングマンのオズボーンさんのラブミーテンダーは本物の英語であった。ゴルフ参加者が18名、この高い比率になる

と、旅行日程、土・日ではゴルフ場が確保できないこともあって、本年は6月9・10。日・月のスケジュールとなった。

(M・K)

JBIA 懇親旅行〔フォーティー・ラブ〕テニス例会 (6月19～20日)

梅雨の合間に早起き鳥は球拾う、と言う訳ではないが、我がテニス仲間はJBIA 団体様ご一行より一足早く新宿に集合、9時30分発の小田急ロマンスカーで出発、小田原からはJR 乗り継ぎと、楽しい列車の旅を続けて伊豆稲取に向いました。流石に仕事を離れ好きなテニスが出来るとい事で、どの顔も1才も2才も若返って生き生きしていました。

今回の例会は常連会員諸氏の身勝手な都合が重なって、総勢6名のごく控え目な会になりました。それでも妖花一輪を加え、しかも例会毎に新会員の参加という嬉しい現象は今回も引き継がれ、はるばる英国出身のJ.オズボーン氏(ロングマン・ペンギン・ジャパン社新社長)の参加を見ました。

腕前もなかなかのもので、昨今の英国経済には見られない“パワフルな”テニスを披露して頂き、今後の〔フォーティー・ラブ〕会員諸氏の刺激剤になるのは必至と思われます。

1日目は真夏を思わせる強い陽射しの下、緑濃き稲取の山の中、見上げればバイオパークの大観覧車、一方、遙かに霞む東伊豆の光る海を望みながら、国境を越え、老若男女の隔たりもなく、呉越相和して楽しい試合を展開する事ができました。関東一円が雨に煙った2日目も、予定通り午前中一杯存分にゲームを楽しみました。

(K.K.記)

72会ゴルフコンペ

(第59回) 狭山ゴルフクラブ 1991年3月15日(金)

前後の日が雨天、コンペ当日だけ初夏のような好天。72会はウソのように天気恵まれています。ここ数回後藤(フェファ) 施風が吹き荒れて、男性陣は朝から緊張さ。今日負けたら髪をおろすとかおろさないとか。

そういう中で当コースメンバーの中林さん(日賀)がスタート前に優勝宣言。過去2回色々なプレッシャーに負けて実力発揮できなかった中林さん、今日は鶴さん(東亜)、大野さん(丸善OB)、石原さん(医学書院)とメンバーに恵まれ、又キャディーさんが仲良しと条件がそろいました。

終わってみれば堂々の宣言優勝。これからまだ恐れ存在になりそう。2位には同じパーティーの鶴さんがベストグロスで入り、表彰パーティーでは皆さんホッとした表情。

優 勝	中林三十三(日賀)	45	46	Net76
準優勝	鶴 三郎(東亜)	43	45	Net79
3 位	日和田早苗(紀)	45	45	Net80

ベストグロス 鶴 三郎(東亜) 89
 ドラコン 中林三十三(日賀)、村上道夫(東京ブックランド)
 ニアピン 日和田早苗(紀)、原 康三(紀)
 (S.W.記)

(第60回) 伊豆大仁カントリークラブ 6月10日(月)

記念すべき第60回大会、1991年6月10日、静岡県の大仁C.C.にて参加18名で開催されました。前日の懇親旅行の飲み疲れもあって今一つ元気のないスタートでしたが、プレーが始まると皆さん真剣そのもの、優勝目指して一打一打に熱中していました。コースコンディションはグリーンも含めて大変素晴らしく、さすが伊豆の名門とうたわれているだけのタフなコースでした。

さて成績の方ですが、最近メキメキ腕を上げた三洋出版の前原寧夫さん、グロス89の見事なスコアで初優勝、2位には最近いつも優勝か上位にからむフェファ・サイモンの後藤明美嬢(ニアピン賞も持って行きました)

3位には久しぶりにベストグロス賞がとれた八重洲ブックの竹内紀彰さんと続きました。優勝候補No.1の紀伊國屋の吉本専務は新兵器のクラブでドラコン、ニアピンをさらうあたりはさすがの腕前でした。初参加丸善の中山慎一さんのニアピンも見事でした。国際書房の中村勲さんもドラコンがとれてニコニコ顔でした。同じく初参加の日本レンタカラーの小野寺聰嗣さんのドラコンは飛びすぎのドラコンでした。丸善の竹村政彦さんのニアピンはあわやホールインワン寸前でした。初参加日本レンタカラーの江口隆三さん、丸善の神田俊二さんと野坂秀男さん、今回は参加賞だけでしたがこれにこりず次回にはぜひ頑張ってください。

尚次回(61回大会)は51回~60回の優勝者に依る優勝カップ取り切り戦を兼ねて、9月26日(木)に埼玉県の高根カントリークラブで開催されますので皆様又振ってご参加下さいませ。

60回大会成績表

優勝	前原寧夫(三洋出版)	グロス89	Net 73
2位	後藤明美(フェファ)	グロス89	Net 77
3位	竹内紀彰(八重洲ブック)	グロス89	Net 79
4位	小関妙子(名著普及会)	グロス107	Net 80
5位	中山慎一(丸 善)	グロス104	Net 82

以上

(記、東亜ブック 鶴)



余丁町辺の坂と沙翁劇〔4〕 逍遙の偉業

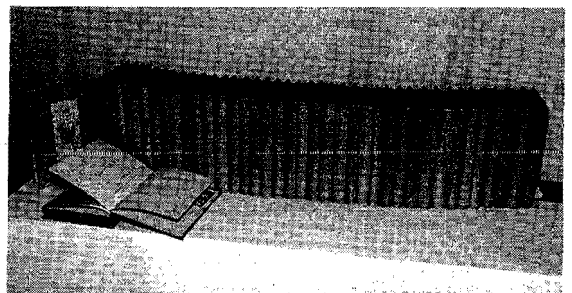
丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

文芸協会演劇研究所といえば松井須磨子が思い出されてくる。『ハムレット』のオフェーリアでデビューし、イブセン『人形の家』のノラで大女優となり、なにをおいても『復活』のカチューシャで一世を風靡した女優であった。やや余談になるがここで少し彼女について触れてみることにしよう。

演劇研究所研究生となった松井須磨子は、念願の女優になるため隆鼻術で整形までして受験し、その鼻は冬には紫色に変色したという。研究所の授業はかなり高度で、『ヴェニスの商人』や『人形の家』などの英語講読もあって小学校しかでていない須磨子の苦心は尋常一様のものではなかったようだ。しかし天分に恵まれた彼女は逍遙や島村抱月の指導によってやがて大女優に育ち、輝くばかりの巧みな演技で観客を魅了し、その一方で女優生活は奔放なものであった。後年、抱月が結成した芸術座で演じた当たり役カチューシャの『復活』は、その通俗性を批判されながらも、大正3年に帝国劇場で上演を開始して以降500回に及ぶ全国公演を行う。その中で歌われた「カチューシャの唄」（島村抱月・相馬御風作詞、中山晋平作曲）は全国を風靡し、竹久夢二の装丁になる楽譜は4万数千部、レコードは2万枚の売れ行きをみせたという（大森盛太郎『日本の洋楽』）。芸術座が上演した多くの翻訳劇中シェイクスピアでは、抱月が須磨子のために脚色した『クレオパトラ』（アントニーとクレオパトラ）を大正3年に帝国劇場にかけたが、これは不評をかってしまう。女優として歩みだしてから約10年、須磨子は新劇の歴史に忘れ難い足跡を残し大正8年に師抱月の死を追って自殺する。享年34才の燃え続けた人生であった。さて、前回紹介した通り明治30年代の翻訳・翻案は概ね上演と結びついたものであったが、30年末頃からは本格的な、しかも大がかりな翻訳事業が手がけられる。重要なものを拾うと、明治38年から42年にかけて戸沢生保（姑射、のち東京外語の校長）・浅野和三郎（馮虚）による『沙翁全集』10巻は沙翁翻訳史に光る優れた訳で高く評価されたもので、第1巻『ハムレット』は日本で最初の完全逐語訳であった。ちなみに第4独白“to be or not to be”は「定め難きは生死の分別」と訳される。この全集は当

初全作品を翻訳する計画でスタートしたが、逍遙による全集の発行が開始されたために中断することになる。『新體詩抄』にハムレットの第4独白を発表した外山正一は、明治14年に『霊験皇子の仇討』という題でハムレットの訳を試みたのが、明治42年丸善より刊行された『山存稿』の中で公表される。変わったところでは、明治44年の相馬御風による『ハムレット物語』、大正になってその2年に森鷗外の『マクベス』、大正4年の久米正雄の訳による『ハムレット』などがみられる。しかし、この時代のシェイクスピアの本格的な全訳は逍遙によって成し遂げられることになる。『沙翁傑作集』全40巻は明治42年に『ハムレット』で刊行が開始されてから、大正を越え20年の歳月をかけて昭和3年に完結する彼の畢生の大事業となった。同年にはこの訳業の完成と古希を記念して早稲田大学に演劇博物館が創立される。そして間もなくその全面改訳に着手し、『新修シェイクスピア全集』が昭和8年から10年にかけて発行をみる。個人によるシェイクスピアの完訳は世界に類をみない偉業であった。

日本で最初の世界シェイクスピア会議“Fifth World Shakespeare Congress”が8月11日―17日東京で開かれる。関連行事として先頃、仮名垣魯文翻案『葉武烈士倭錦絵』が歌舞伎俳優によってグローブ座で上演された。魯文がこの作品を上梓してほぼ100年目の初舞台化で、嬉しい催しであった。こういうものを通してその時代を体験できることは素晴らしいことであり、人間が創造し積み重ねてきた文化を大事にすることが、未来を膨らませる原動力になることを心に留めていきたいものだ。



逍遙訳『新修シェイクスピア全集』（中央公論社刊）

「記録破りのABA大会」

6月1日から6月4日までNew York市のJavits Centerで開催された1991 American Booksellers Association大会は、事前登録段階ですでに26,693人に達し、これまでのどの大会の最終登録者数も越える記録となった。大会最初の3日間で総入場者数が35,869人、最終的には36,000人を越えると大会関係者は予想している。大会中食事や交通機関で長蛇の列が出来るのではという危惧は杞憂に終わり、犯罪事件の報告もなく、「喜ばしい驚き」というのが参加者の多くに共通した印象であった。Four Seasons, 21, Rainbow Roomなど高価な場所で催された出版社パーティーは出版不況が嘘のような豪華さ、パーティーに費やした金の方が大会でのオーダーより大きい筈という参加者もいた。今大会で使われた金と大騒ぎがこれからの書籍販売にどのような意味を持つかははっきりしないが、今秋は昨秋よりも良さそうというのが会場での多くの業界関係者の感触であった。

(B.P.レポート6月10日号から抜粋)

—(株)伊國屋書店提供—

書籍展示会のお知らせ

第1回ミラノ書籍展

12月5日—8日

INTERLIBRO '91 First Milan Book Fair, Milan

総代理店ご案内

ユサコ株式会社

Tel. (03)3502-6471

Fax. (03)3593-2709

American Pharmaceutical Association (APA)

1. Journal of Pharmaceutical Science (月刊)

2. American Pharmacy (月刊)

<いずれもAirmail扱い>

計 報

伊部利秋氏(前 三洋出版貿易株式会社代表取締役)は5月30日に心不全のため逝去された。享年64歳。葬儀は新宿区早稲田町の龍善寺でとり行われた。ここに謹んで哀悼の意を表します。

JBIA DIRECTORY 1991

(洋書輸入協会ダイレクトリー1991年版)

25.8×18.2cm 336頁 会員価格 2,200円(送料共)

一般価格 4,500円(")

海外価格 8,000円(航空便送料共)

New!

ドイツ化学会の出版社より刊行開始!



全巻ご予約承り中

材料科学工学全書・全18巻

Materials Science and Technology

: A Comprehensive Treatment
in 18 vols.

1990年12月～1994年刊行予定 各巻500～600p.



ISBN 3-527-26818-9

セット概価 ¥1,040,000

各巻 ¥58,050

継続でご注文の場合; 各巻 ¥48,600

日本総代理店



株式会社 紀伊國屋書店

(新館) 〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号

電話問い合わせ先
(03)3439-0161
内線551

1991年7・8月合併号

通巻第291号

洋書輸入協会

編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎ 3271-6901 FAX. 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎ 371-5329